

環境教育 REPORT

2012

卒業生と在校生の架け橋

Vol.1 創刊号

- 創刊号に寄せて ①
- 環境情報から環境教育へ ②
- レポートへの期待 ②
- 朋翠会会長のことば ②
- 緑苑祭 ③
- 思い出深い授業 ③④
- オーストラリア
環境保全&英語研修に参加して ④
- ご退職される先生 ⑤
- 卒業生へのインタビュー ⑥⑦
- 先生から
卒業生に贈る言葉 ⑧

創刊号に寄せて

創立130周年記念講演から



木元 幸一 学長

このたびは、朋翠会レポートの創刊おめでとうございます。これまでの朋翠会の活動に心より敬意を表します。本学は、2011(平成23)年度創立130周年を迎えました。この創立130周年記念講演では、今から130年前に創立された本学の歴史を振り

返りながら、当時の文化と社会を学び、私学における建学の精神がそれぞれの時代を反映し、時勢の教育がなされてきたことを学びました。

本学の歴史は「明治維新後の我が国の教育黎明期に始まる渡邊辰五郎・滋の尊い教え」、そして「戦後教育の礎を築いた東京家政大学初期の学長青木誠四郎の理想の実現」の2期に大きく分かれ、校祖渡邊辰五郎以来の建学の精神「自主・自律」が教育理念となり、東京家政大学となつてからの生活信条「愛情・勤勉・聡明」が校風となり、今に伝えられています。

歴史を知ること、昔を懐かしむことではなく、過去と現在を繋ぎ、どういった形で受け継がれ現在まで活かされているかということ、今の学生に理解してもらうことを、記念講演の大きな目標としました。

前半は校祖渡邊辰五郎に関することを、その一生や業績を中心に2代目渡邊滋まで、当時の同窓会誌「裁縫雑誌」の表紙絵にまつわる話や卒業生の海外での活躍も含め、時代背景と共に7人の先生にご講演をお願いしました。

渡邊辰五郎は、有形民俗文化財となつている雛形尺教授法の画期的発明はもちろん、「人格の発露たる生きた模範を示し、その心琴に触れて即ち完全なる人格を切実に移す」としてその教育家としての資質によって、単なる仕立て屋の技術を伝授する裁縫の教授ではなく、裁縫教授によって身

を立てることのできる女性を数多く育て、その教え子が日本全国で学校を設立し今も残っています。日本国家の黎明期において、教育家として確固たる使命を果たされ、その名が歴史に印されています。

後半は、戦後今の板橋区に来てからの2代目学長青木誠四郎の生涯と共に、太平洋戦争後、今日の我が国の教育基盤を作った業績から本学への期待と理想について、著書と講演集に書かれていることなどの話を5人の先生にして頂きました。そして、本学の歴史を振り返り、東京家政大学の未来への夢と希望を語ってもらい、清水司理事長を中心とした座談会を終りました。

平成24年度からは前期人間教育科目の中に選択科目として入りますので、より多くの学生に自校に対する誇りと愛情を育めればと思います。

環境情報から環境教育へ

環境教育学科 学科長 松木 孝幸先生

当学科は、2009(平成21)年に環境情報学科から環境教育学科へと名称変更をしました。同じ年度に児童教育、教育福祉と教育の名称を冠した学科が3つ誕生したことになります。当学科は、1992(平成4)年に栄養学科理科コースを発展的に解消してできた環境情報専門コースに端を発しています。立ち上げ時の主たる教員は当時、教養部の理科系教員から構成されていました。それらの教員に情報系と環境分析系教員を加えて、1995(平成7)年には栄養学科から独立し環境情報学科となりました。

環境情報学部・学科懇談会

当時、環境情報と名のつく学部・学科は少数ですが、慶応大学、武蔵工業大学(現東京都市大学)、などがあり、新設の同名の学部・学科の情報交換を目的として環境情報学部・学科懇談会がこれらの大学間で催されました。この懇談会は平成17年度には当校でも開催され、お互いの学部や学科の内部事情が分かり、後の学科の改革にあたり大変有意義でした。

これらの大学に共通した悩みは、環境という名称を冠している割には、環境を思考した科目を教授していない、あるいは、主たる就職先として環境関連の会社よりも情報関連の会社が多い、また学生の平均的な学力が低いという傾向です。

少子化の波が押し寄せてくる中、当学科も毎年の志願者数が降下線をたどり、他学

科同様に改革を迫られました。その結果、学科名変更が1番早くて見やすい変革の一方法であるということと環境教育学科という名称となりました。当時、教育の名称をつけた学科名変更が他大学で相次いだこと、情報の技術は強調せずとも実際に多数の科目をおくことで理解させることとしました。

家庭から地球全体に関する環境教育

しかし、現在入学者数が確保できている現状から考え、学科名に引張られて最初の改革の意図とは異なる方向に行かないように注意すべきでしょう。当学科の将来像としては、大人向けの環境の教育を実践することに主眼を置くという方向性であり、学生に迎合せず、筋を通した家庭から地球全体に関する環境の教育を施すべきであると考えています。



▲新しく加わったカリキュラムの授業風景

レポートへの期待



生活環境学研究室 吉原 富子 先生

しました。そして、第9回の総会を2009(平成21)年10月25日に開催しました。しかし会のあり方を考えることの重要性を認識し

1. 朋翠会の存在の徹底
2. 住所変更を含めて卒業生の現住所の整理など、反省点と試行錯誤の結果、学科情報誌を発行し周知してもらうことから始めたいと考えました。個人情報保護法が弊害となつている事実もあります。これは大学の同窓会である緑窓会本部が抱える同様の課題でもあります。

このレポートがパイプとなり卒業生の皆さんと情報を共有し会を確実に発展させるよう先輩方と在学生を結び架け橋となることを願っています。今後このレポートを保存していただき皆さまの役に立つ情報源となることを確信しております。

ほうすいかい 朋翠会会長のいざよ

平成8年度卒 東京都庁職員 三尾 純子(旧姓 筋内)

今回、朋翠会としてレポートを発行することとなりました。会長を務めております私としては、会員の皆さまに愛着を持っていただけるレポートとなればよいと思っています。

例えば、在学生の皆さまは、卒業後、どのような将来を描いていますか。将来の参考に、学科の先輩方がどのような人生を歩んでいるのか興味をお持ちではありませんか。もちろん、大学の学生課などでも様々な情報を提供しているかと思いますが、このレポートを通して学科としての交流を持つことができたらよいと思っています。一方で、卒業生の皆さまは、卒業以来、大学

を訪ねたことはありませんか。訪ねたいという願望があっても、なかなか訪ねてないのが現状ではないでしょうか。そんな皆さまが大学をいつても身近に感じられるように、このレポートが学科の状況をお伝えする情報源となればよいと思います。そして、いつの日か大学を訪れるきっかけとなれば嬉しく思います。私自身も卒業以来、大学を訪れたのは数回ですが、訪ねてみると懐かしくてよいものです。

繰り返しのようになりますが、このように、このレポートが在校生と卒業生との情報交換や情報共有の場となっていくことを願っています。最後になりますが、このレポートの発行に尽力くださった先生方や編集委員の皆さまに厚く御礼申し上げます。



緑苑祭 (りょくえんさい)



▲ 手前左が荒井 良二さん

2011年10月22日(土)、23日(日)の2日間、東京家政大学は『学園創立130周年記念『家政が日本を活性化』をテーマとした第51回緑苑祭を開催しました。

環境教育学科では、人気絵本作家の荒井 良二さんを招いた創立130周年記念学科シンポジウムと、学科企画のクイズツアーの2つを実施しました。

緑苑祭1日目午後2時から、16号館1階の161B講義室で、NHK教育テレビで放送中の「スキマの国のポルタ」でお馴染みの絵本作家であり、新聞先生のご友人である、イラストレーターの荒井 良二さんをお招きし、創立130周年学科シンポジウムを行いました。

幼稚園の年長さんから小学生までのおよそ20人と家政大生数人が参加し、それらを2つのグループに分け、ダンボールやトイレトーパーなど身の回りにある様々な素材を使って皆で大工作を行いました。

子供達の中にはシンポジウムが始まるだいぶ前から来場して待っていたり、「(荒井さんが)図工の教科書に載っていたよ」と荒井さんと話をしたりする子供もいて、この日をとても楽しみにしていたことが伝わってきました。

普段、家では怒られてしまうことでも、今日は思いっきり出ると子供達はやりたい放題！ 墨汁をまき散らしたり、絵を描いたり、ダンボール箱をちぎってみたり、手はもちろん足ま

でも体全体を使って思う存分作品作りに励みました。

およそ2時間後には身近なもので「船といかだ」の素晴らしいアート作品が完成し、参加した子供達はとても満足気でした。また、保護者の方や学生、そしてそれ以外の文化祭に遊びに来ていた来場者の顔までもが、作品や子供達の伸び伸びとした姿に皆にっこりと笑顔になりました。

一方、学科企画では、30人の環境教育学科の学生達が環境に関する24問のクイズを作り、回答用紙を受け取った参加者が教室に設置されたそれらのクイズを探しながら解くという形式のクイズツアーを4号館のグループ学習室で行いました。

これは、多くの方に自分達が学んでいる「環境」を身近に感じ、興味や関心を持っていただきたいという想いから企画したもので、クイズは子供から大人までが楽しめるように分かりやすく表現しました。

その中には、節電や節水に役立つような問題やリサイクルの法律に関する問題、豆知識になるような問題もあり、クイズの種類は本当に様々でした。

クイズに答えると景品がもらえるということもあり、参加者は楽しみながら、一所懸命に最後まで問題を解いていました。

また、教室には環境教育学科の先生に取材して、その取材した内容をまとめたものも展示していて、参加者はクイズの合間に眺めながら楽しんでいました。



思い出深い授業

手賀沼の過去・現在を知る

環境情報学科4年 小田晴加

大学3年生の授業で行った環境分析実験は、環境・公害問題の解決策を知識だけではなく様々な測定器を使いデータを分析して学びました。

最後の授業はフィールドワークで、千葉県にある手賀沼に行き水質調査を行いました。当初、沼と聞いて暗くドロドロしている水を想像しましたが、現地に着いてみると手賀沼は大きく、磯の香りも強かったため、まるで海に来ているようでした。

必修の授業だったため、クラスの皆が集合し船に乗って、まず手賀沼の歴史を学びました。それから何箇所かで水質調査を行い、これまで毎年先輩方が行ってきた調査と比べることで、沼の過去から現在までの状態を知ることができました。

このフィールドワークを通じ、人間が引き起こした公害問題の重大さ、水の大切さを学び、また、皆で調査を行う楽しさを知ることができました。



▲ 協力し合いながらの作業 (船内にて)

課外授業で実験好きに

環境情報学科4年 清水麻衣

大学生活の4年間は、他の学科に通っていたらきつと気にもしなかつたような数式や地球環境のこと、食の領域から廃棄の部分まで幅広い勉強、実験でフィールドワークに行ったりと環境教育学科から学びを学べる機会が多くありました。

「環境分析実験」は、土曜日の1日を使って実験が行われ、酵母のドライイースト実験や手賀沼での課外授業などがあり、白衣を着て専門的なことを習つので、環境情報学科ならではの感じました。授業は最初に知識を勉強してから実際に実験を行い結果も出るので、身につけてすぐ楽しかったです。

実験室の外に出て池から採水したり、手賀沼では皆で船に乗り沼の水を試料とし、理科系の課外授業で、実験が好きになりました。「産業と職業」は、職業やビジネスメイクについての知識が深まる授業でした。情報の教職を取っていたので必修でしたが、教育実習を終えた先輩方の話もあり、とても参考になりました。

その後は、毎回異なる企業の方が来て講義してください、こんな仕事もあるんだと興味が増えました。私達が授業で使った実験器具を使用して分析の仕事をされている方や、今私達が行っている実験をそのまま職業にしている方が来てくださり、環境の仕事ってこういうものなのだといメージが湧きました。

就職時期が近付いたころになるとビジネスメイクを学べる授業もあり、肩はどれがよくてまつ毛はこつで就活はこつという感じがいいなど教えていただき、今までの自己流とは違うメイクの仕方について分かったのがこの授業でした。学校の授業の中で行ってくれて大変良かったです。

オーストラリア 環境保全& 英語研修に参加して

環境情報学科4年 伊藤 由希



2010(平成22)年

4月、第2回オースト

ラリア研修について説

明がありました。第1回

の研修時より期間が短く、

費用も安く、ホームステイは

2人一組というなんとも参加

しやすい内容。これは行くしか

ない!と思いました。2週間も

海外に行くなんて社会人として働

き始めたらなかなか実行できない

事です。そこで親を説得して参加申

し込みをしました。

私は初めての海外で、右も左も

わからない状態。出発前にとにかく

いろいろな人から情報収集を

しました。英語もそれほど得意で

はないのでとりあえず生活に必要な会話を

勉強しました。

実際にオーストラリアに着いてみると何も

かもが新鮮で出発する前の緊張はどこへ?

というほどテンションが高まりました。立ち

並ぶ家や店に感動しました。私のホームステ

イ先には日本からのステイメイトがいて、初

日に家の事や学校までの道のりなどいろいろ

教えてもらい、Q&Aに連れて行ってもらえた

のでラッキーだったと思います。

クイーンズランド大学(UQ)での授業は普

通の英語の授業や環境問題を交えた授業をは

じめ、現地の学生とのディスカッション、環境

についてのゲストによるレクチャーが中心で

した。最初はやはり同じ学年の人とばかり行

動していましたが、徐々に他の学年の人とも

仲良くなり、お昼を一緒に食べ、お互いのホー

ムステイ先の話をしました。

フィールドビジットはどれも印象的でした

が、特に印象に残ったのはStradbroke Island

です。フェリーに乗って島に行き、Moreton

Bayまでバスで行きました。浜の漂着ゴミ調

査では、なんと日本製の包装紙が落ちていた

ではないですか!韓国製の菓子の包装紙もあ

りました。遠くから見ると分には真つ青で本当

にすごく綺麗な浜なのに、近づいてみればゴミ

ミがたくさん。それをウミガメが食べて死ぬ

事件などがあると聞きました。日本のゴミで

海外にまで迷惑をかけている事実を知って驚

きました。

また、Stradbrokeは世界で2番目に大き

な砂の島だそう、砂の上を歩く度にキュッ

キュと鳴って楽しい一面も。イルカが海で

びよんびよんしているのも見られました。運

がいいと鯨も見られるとか!野生のコアラ

やカンガルーも見ることが出来ました。

普段の生活では、授業が終われば買い物

楽しんで現地の人と交流し、積極的にいろい

ろな所へ出かけました。おかげで家の近くの

コンビニのお兄さんとも仲良くなりました。

日本とオーストラリアの違いを感じ、

両方の良い所も改善すべき所も学ぶ事がで

き、今後の生活を考えるきっかけにもなりま

した。2週間という短い間でしたが、毎日充実

した日々を過ごす事ができたのは私にとつて

意味のあるものとなりました。



ご退職される先生

東京家政大学の教員生活を振り返って

私が東京家政大学に赴任したのは、1993(平成5)年4月で、栄養学科環境情報専攻が創設されて2年目でした。先生方も張り切っていましたし、学生は理系・文系志望の多種多様な人達がありました。できたばかりの専攻ですので設備等は十分ではありませんでしたが、学生も教員も環境問題に取り組むんだという意欲に溢れていました。そこで、私はその学生達の意欲を組んで現在の環境サークル「ジラス」をつくりました。その時は、主に水質調査を中心に活動しましたが、埼玉県土呂駅近くの見沼田んぼを流れる川へ10人くらいの学生と河川周辺の環境と水質を調べに何回も行ったのはとてもよい思い出です。現在もジラスの環境保護活動が続いているのは嬉しいです。

学生の環境への取り組む意欲はその後、資格取得へと向かい、その1つが公害防止管理者でした。国家資格もありますが、東京都にもあり、専攻創設当時は、試験が実施されていましたが、試験制度が変わり、東京都との交渉の結果、環境情報学科(1996(平成8)年に環境情報専攻から学科に改組)履修科目の特定科目の単位取得で東京都1種公害防止管理者の資格が得られるようになり、環境教育学科になった現在も多数の皆さんが取得されています。

最近、環境カウンセラーにつながる環境インストラクターの資格取得のための機会をつくっています。専攻創設当時から比べると、社会も学生も環境に対する考え方が大きく変わり、個々の環境活動に関心が高まってきていますので、この資格を取得して将来の環境活動に役立てばと考えています。私は赴任以来、主に、物理化学、環境有機化学(現環境化学)、環境分析実験を担当してきました。物理化学は学生の皆さんを非常に悩ませた科目であったと思います。私の学生時代もやはり難解な科目で苦労しましたが、内容上やむを得ないところがあるかと思ひます。皆さんに

とってはたくさん勉強したというよい思い出になっていると勝手に考えています。一方、環境分析実験では、環境汚染物質はこのように測定するのだと興味深く、楽しく実験に取り組んでもらえたと思いますし、夏の暑い時期の船に乗って手賀沼水質調査もよい経験だったでしょう。

私の研究室の卒業研究生は、2012(平成24)年3月で400人を超えます。皆さんはとても素直で意欲的に実験・調査研究に取り組んでもらい多くの研究成果が上がりました。就職先でもとても重要な仕事を任されている人が多くいます。また、大学院へ進学した人もたくさんいて、修士号が約40人、博士号を取得された人も3人います。

このように多士済々な東京家政大学学生諸君と過ごすことができた素晴らしい19年間でした。感謝、感謝です。



環境分析研究室
村上 和雄 先生

卒業生へのメッセージ

卒業する皆さんへは、毎年言っていることですが、

まず、① **あいさつ** 大きな声ではっきりと元気よく、これだけで評価が良くなることがあります。② **仕事に空気ができたら、お手伝いすることがありますか** 先輩・同僚など周囲の人を配慮する心遣いをする、いつかは逆の立場になることがあります。③ **人としてのたしなみ** 特に話し言葉、「すごい」、「やばい」としか言えないポキャブラリの少ない人間になるな。人前で自分の両親を「お父さん」「お母さん」と呼ぶな、「父」「母」と呼ぶべき。また、箸・鉛筆を正しく持てるようになどなどです。

東京家政大学を去るにあたって

今年度末に環境情報学科・環境教育学科を去ることになりました。過去においては気象庁の定点観測業務、気象研究、気象大学校、オゾン層情報センター、旭川地方気象台勤務、気象庁行政官などと種々な業務を経験しました。これら業務を遂行する中で多くの困難に直面し、またそれを解決するための多くの時間を費やしました。その時得た知識・経験は、私の宝物となり、すべてが無駄になることなくここでの教育活動の教材となりました。

この11年間は私の社会活動の総括の年でもあったと思います。以前にはほかの大学で教授の経験はありましたがこの大学に着任して、この大学の学生のための講義資料を作成するのに大変な努力を余儀なくされました。年々改善され、今はとても充実した講義ノートとなったと自負しています。そういった中で多くの学生と接し、教育という与えられた責務を果たす中で自分自身も喜びを感じ、学生の知識の行動を見たときにまた感激し、それらは過去では得られなかった新鮮な感動を与えてくれました。私の教育理念は、「地球環境について、大学としての教育の質を守り、安易

な妥協をしない」ところにありました。そのことによって、社会において環境については他の社会人と差別化でき、社会において役に立ててくれると信じていたからです。また、そうなら嬉しく思います。

卒業生へのメッセージ

人生観はその育ってきた環境、教育、感性、価値観などによって異なります。一概にこうあるべきだとはいえません。ただこうありたいと思うならば、それに向かって努力、涵養すること以外にはあり得ないと信じています。たとえ目的に達することができなくとも得られることは多くあります。このように書くとき当たり前ですが、人生の大半を過ごした私の正直なところです。

いつになるかわかりませんが、またお会いできる日を楽しみにしています。



地球環境学研究室
宮内 正厚 先生

「学校全体の動きが分かる」

井戸 愛実さん
東京家政大学附属女子中学校・高等学校
事務・理科非常勤講師

Q 今の仕事は

A 社会人3年目で、最初の2年間は高等学校の情報の非常勤講師をしていました。2011(平成23)年の1月からは同校の事務で働いていて、さらに化学の授業も受け持っています。

Q 教員の資格はいつ取ったのですか

A 私の時はまだ大学で理科の免許が取れなくて、大学在学中の1年間、科目等履修生制度を使って、授業だけ受けて申請という形で高校の理科の免許を取得しました。

Q 将来は

A 私は講師から専任になるという流れが多いので、講師をやrittつ、専任になることを目指しています。

Q 仕事で大変なことは

A 授業中に切り替えが出来ないというか、授業とは全然関係のない方向に気持ちが行ってしまう生徒がいて大変です。

Q 仕事のやりがいは

A 生徒が授業を楽しんでいると言ってくれた時です。自分が教材研究をする中で、伝え方っているいろとパターンがあるので、伝えたいことが伝わると嬉しく思います。

あと生徒が「先生、ここからない」と聞きに来てくれる時もやっぱり嬉しいです。



取材担当：田村美香

「メリハリのある教師を目指す」

奴田原 希菜さん
学校法人科学技術学園高等学校
情報非常勤講師

Q 今の仕事は

A 私事で情報の非常勤講師をしています。

私が勤めている学校ではまだ「情報」という教科が確立してなくて、先輩がいませんでした。校長先生に「あなたの思う情報の授業をやってみなさい」と言われて、最初はどこまでやっていいのかわからなくてすごく戸惑いました。でも1年目からいろいろな会議に出席したり、体育祭とかの行事にも参加したりして、結構毎日充実しているという感じはあります。

Q 大変なことは

A 最初のころは授業中に生徒との会話が脱線したときに、話を切り替えるタイミングがつかめませんでした。あと情報は絶えず変化していて、例えばスマートフォンやタブレットがどう動くのかということとかは自分で追っていかないと生徒に伝えられないんです。毎年勉強しないといけないので、でもそういうことに詳しい生徒もいて、逆に生徒から教わることもあります。

Q 目指す教師像は

A 生徒が思っ(教師)という形にはまりたくないです。こういう教師になりたい！っていうのはなくて、社会のなかにはいるけどいつまでも気さくなお姉さんっていう感じの教師でいられたらいいなって思います。それで教えるところは教えて、世間話などをするとときは世間話をして、そういうメリハリがつけられたら良いと思います。そうでない生徒も疲れるし、あの先生は固いとかうるさいという風に思っ(その教科を嫌いな)になる生徒も出てきますから。

Q 学校で学んだことで活かしていることは

A 私は最初、別の大学の短大にいて3年から編入で環境情報学科に came ました。それで科目履修の関係で1年生と全く無知な状態で一緒に授業を受けることが多くて、その時にそういう下の人



取材担当：田村美香

達と友達感覚で話すことで、この人はこうだからという話せばいいとか、そういう接し方を学校生活を通して教えてもらった感じはします。それが今の生徒との接し方にもつながったかなと思います。同級生や年下の子や先生方などいろいろな人と話せて、忙しかったけど楽しい2年間でした。

Q 環境情報学科を一言で表すと

A アットホーム！だってこの学科は珍しいと思います。環境の知識に富んでいる先生と情報の知識に富んでいる先生、まったく関係のなさそうな専門の先生が同じ科にいらんです。ここで実験をやっ(その実験内容とかをデータにまとめなくてはならない。でもわからなかったら情報の先生に聞ける)というのがすごいです。それでどの先生も分からないことがあったら教えてくれます。どの研究室に行っても気さくに会話が came ました。

それにこの学科に編入しようと思ったのも、環境も勉強できるし、情報も勉強できるし、教員免許も取れるから最高じゃないかと思っ(た)からなんです。

インタビュー

平成
22年度卒

「市販薬の9割を販売」

つちはし かなえ
内橋 佳奈恵さん
ドラッグストア
「クリエイティブ・デー」販売員

Q: 現在のお仕事は

A: ドラッグストアの社員として接客の仕事をしています。薬剤師の免許は持っていませんが、登録販売者という免許を持っているので、市販薬の9割を販売できます。

Q: 今の時代は資格ですよ

A: OO検定・初級シスアド・パソコン検定・秘書検定などを在学中に取りましたが、資格があるからこんなことができる、というものはありませんでした。本当に重要なことは検定のために勉強することなのだと思います。社会人になり、検定を取る機会があったのですが、仕事と両立して勉強しなくてはダメでした。大学時代に学業とバイトに挟まれて勉強した経験からか、「勉強の方法」が身につけていました。そつえば、話のネタとして履歴書にOO検定を書いたところ、面接で3社中1社に聞かれました。

Q: 生活は

A: サークル活動はせず、バイトに集中していました。接客業だったのですが、バイト期間が長くなると時間限定で店長の代わりとなつてほかのバイトさんをまとめる仕事をします。ほかの方のミスもすべて自分の責任になりますから、ものすごく責任重大でした。今では社員としてバイトさんを管理しているので、現在の仕事と同じです。いい経験でした。(笑)



取材担当: 川口真佳

平成
23年度卒

「エコを分かりやすく伝える」

ながみね めぐみ
永峯 恵さん
ベンチャー企業「みんな電力」
広報・メディア部門担当

Q: 今のお仕事は

A: 「みんな電力」というベンチャー企業に勤めています。「おじいさん、おばあさんから子どもまでみんなが楽しく発電しよう」がコンセプトの、まだ立ち上がったばかりの会社です。私は広報担当として「エネルギーとエコロジー」についてメディアに伝えています。

Q: どのような会社ですか

A: 最近よく使われる「Eco」や「EcoBook」と同じソーシャルメディアで「今電力を何ワット発電したよ」「うちからは〇〇ワットだよ」など、皆さんの発電状況を発信する場を提供しています。他にも、新しいエコ活動・ミニ発電機などの新しいエコグッズなどを紹介しています。

Q: 主な活動は

A: 動画発信サイトを通して「EネともTV」という、エネルギーやエコロジーについての番組を作っています。番組の中では司会を担当しています。今までゲストで芸人さんから歌手の方まで様々な人をお呼びしました。先日の放送では風力発電の専門家がいらつしゃいまして、最近の風力発電の威力について語ってくれたりとても勉強になりました。

Q: 伝えることって大変なことですよ

A: そつです。ね、どうやって分かりやすく伝えられるかが重要になります。

Q: どんな企画があるんですか

A: 「EネともTV」を視聴者の皆さんに問いかけて、エネルギーについて一緒に学ぶ企画をやりました。以前、エコ川柳を募集したのですが、皆で考えたり、珍解答があったり楽しかったですよ。

Q: 思い出の学校イベントは

A: やはり緑苑祭です。「EcoAssessment」というサークルに所属していて、「エコめぐ」と一緒にエコツアーに行こう」という企画をしました。緑苑祭中に学校を探検し「ピオトップ」「ゴミ分別」「太陽光発電」などの様々なエコ巡りをしました。2009(平成21)年には、環境情報学科で初めてのミス家政になりました。

Q: おすすめの授業はありましたか

A: エコロジー論です。毎回専門の違う先生方がそれぞれの分野での

エコについて講義をします。例えば、バナナの皮から作つたハンカチ、環境にやさしい住まいとは何か、などがありました。おすすめです。

Q: 環境情報学科を一言で

A: 「未来の環境がわかる」勉強ができることですね。今の環境ってそのままでいいと思うのです。今は原発が中心となっています。しかし、これからは自然エネルギーが主体となると思います。それら環境についての研究を続けていくことで、これから先のことまで明確化されるでしょう。そんな未来の環境が分かるようになる場所だと思います。

Q: 就活はどうでしたか

A: 3年の秋からアナウンサーをめざしてマスコミを受け続けてました。東京基地区から地方局まで計60社は受けたいと思います。大変でした。ほかにも選べる仕事があったはずなんですけど、どうしても自分のプライドが許せなくて。周りほとんどん決まってる、私はエントリーしているけど一向に内定が決まらない。そんな中、縁があった現在の会社に働いています。

Q: これからは

A: 私の地元は去年被災した福島です。福島県民のためにも「どんな県よりも安全な場所にしていこうね」と伝えられるようにしたいです。

Q: やりたい

A: 皆さん、何事もチャレンジ精神を忘れずに、良く学び、楽しく、悔いの無い学校生活を送ってください。

取材担当: 川口真佳



永峯 恵オフィシャルブログ
(<http://ameblo.jp/ecomegu/>)
EネともTV
(<http://akasaki.tv/enetomov.html>)

先生から 卒業生に贈る言葉

ご卒業おめでとうございます。長い人生の中で、折に触れて学科のことを思い出してください。 松木 孝幸先生

学ぶことの大切さを忘れずに、自分の夢に向かって突き進んで行ってください。 井上 宮雄先生

時代は刻々と移り変わっていきますが、変わらぬ家政大学の思い出を大切に、充実した人生をお送りください。 二川 正浩先生

常に目の前の一瞬を大切にすることで、素晴らしい人生を歩んでください！ 藤森 文啓先生

人と和しつつ、自分で決めた道をしっかり歩んでください。ご卒業おめでとうございます。 宮本 康司先生

ご卒業おめでとうございます。皆さんの元気が日本の元気になりますよう、期待しております。 新関 隆先生

一日を大切に積み重ねてください。思い出したらおしゃべりをしに研究室にいらしてね!! 吉原 富子先生

卒業おめでとうございます。新しい場所でも自分らしく頑張ってください。 菅野 ももこ先生

ご卒業おめでとうございます。人との繋がりを大切にこれからも頑張ってください。 河野 美央先生 (旧姓 後藤)

ご卒業おめでとうございます。どんな環境でも、自分らしく楽しく頑張ってください。 今澤 絳佳先生

会員情報・連絡



正門：教育会館(緑窓会館)

「環境教育REPORT」は年刊です。
来年の春にまた皆さまの元へお届けいたします。
連絡先が変更になられた方は必ず下記までお知らせください。

☆編集委員募集☆

「環境教育REPORT」の編集・発行に参加してみませんか。
編集委員を担当くださる方を募集しています。
環境情報学科を卒業された先輩方、環境教育の現役の皆さまの参加をお待ちしております。
担当してくださるとい方は下記までご連絡をお願いします。

朋翠会連絡先

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学 生活環境学研究室・吉原 富子
TEL: 03-3961-4286
E-mail: yosihara@tokyo-kasei.ac.jp



次号の発行は
2013年
3月17日です!!
お楽しみに!!

●編集後記●

「環境教育REPORT」をお読みいただきありがとうございました。委員全員が初めての取材、編集で焦ったり、驚いたりした連続でした。そんな中で、いろいろとご指導くださったフジサンケイグループ・エフシージー総合研究所の山本 ヒロ子先生、当大学の吉原 富子先生、先輩方に感謝します。

また、お会いしましょう!

編集委員：小田 晴加 今野 彩香 岡本 絵里奈 川口 真佳
工藤 真希 田村 美香 松本 かほる

